

第6期 麻生区区民会議 第3回全体会議

1 開催日時 平成29年3月21日（火）午後3時～午後4時15分

2 開催場所 麻生区役所第1会議室

3 出席者 [委員]

安藤委員、石井委員、植木委員、緒方委員、海崎委員、佐藤委員、  
佐野委員、菅野委員、鈴木（昭）委員、鈴木（隆）委員、関根委員、  
高倉委員、高橋委員、長岡委員、橋本委員、林委員、松田（基）委員、  
松田（通）委員、吉垣委員

[参与]

雨笠参与、老沼参与、勝又参与、木庭参与、月本参与  
(欠席) 花輪参与、山崎参与、相原参与、石川参与

[事務局]

井上課長、福島担当係長、鈴木、佐藤、榎本

[関係者]

北沢区長、向坂副区長、小金井区民サービス部長、  
若尾保健福祉センター所長、猪又保健福祉センター副所長、  
木村保健福祉センター担当部長、鈴木道路公園センター所長、  
吉澤危機管理担当課長、川本総務課長、中村地域振興課長、  
三枝生涯学習支援課長

4 傍聴者 1人

### 第3回麻生区区民会議

日 時 平成29年3月21日(火)

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時開会

#### 1 開 会

植木委員長 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、第3回麻生区区民会議を開催させていただきますと思います。

市民館の前の桜ももう満開ということで、そろそろお花見の話などちらほら出ておりますけれども、逆に今日はまた戻ったような大変な寒さでございまして、だんだん年をとってまいりますと、それに対応するのが大変苦勞いたしております。皆様、体に気をつけられて、ひとついろいろな意味で頑張っただけならばと思っております。

なお、今日はいろいろな議題につきまして、各部会からいろいろと報告をいただけるということでございますので、委員の皆様、それぞれ自分の部会以外のことにつきまして何かご意見等々ございましたら、忌憚のない意見を頂戴できればなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

#### 2 議 事

植木委員長 それでは、本日の議事並びに資料につきまして、事務局より確認をお願い申し上げます。

事務局 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

一番上に本日の会議の次第がございまして、次に、資料1として、席次表、次に、資料2といたしまして、第6期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として、(仮称)麻生区の魅力の発掘・発信検討部会の調査審議状況、次に、資料4として、(仮称)市民活動・絆づくり検討部会の調査審議状況、次に、資料5といたしまして、区民会議ニュース第6期Vol.1、資料6としまして、区民会議からの充て職について(案)、あと参考資料1といたしまして、第6期区民会議スケジュール、以上となっております。資料の不足等ございましたら、事務局までお申し出ください。よろしいでしょうか。

次に、本日の議事について確認をさせていただきます。1枚目にごございます次第をごらんください。項番2の議事といたしまして、次の2点について本日はご審議をお願いいたします。第1に、第6期麻生区区民会議調査・審議課題等について、第2に、第4回以降の全体会議の開催日程についてになります。よろしくお願いいたします。

植木委員長 ありがとうございます。

(1) 第6期麻生区区民会議調査・審議課題等について

ア (仮称) 麻生区の魅力の発掘・発信検討部会の検討経過及び意見交換について

植木委員長 それでは、早速議事に入りたいと思いますが、その前に、事務局から報告があると聞いておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

事務局 議事に先立ちまして、皆様に1件ご報告がございます。(仮称) 市民活動・絆づくり検討部会の池松部会長様から、先日、事務局のほうへ体調不良により委員を辞任したいというお申し出がございました。お話をお伺いいたしました。ご本人が今後の審議に出席することが難しくなってしまう、皆様にご迷惑をおかけするのが申しわけないというお話でございました。結論といたしましては、ご本人のご希望どおり、3月10日付で委員の職を解職とさせていただきますので、この場でご報告をさせていただきます。

以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。池松委員、大変熱心にいろいろ部会を運営していただいておりますので、大変残念ではございますけれども、体調不良ということでございますので、やむを得ないと思っております。そういうことで、皆さんご了承いただければと思います。

それでは、議事の(1)第6期麻生区区民会議調査・審議課題等についてに入ります。

まず初めに、(仮称) 麻生区の魅力の発掘・発信検討部会の検討経過及び意見交換を行いたいと思います。

こちらの部会長の林部会長から検討経過の報告をお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

林副委員長 麻生区の魅力の発掘・発信検討部会の部会長をしております林でございます。今日は、よろしくお願いいたします。

部会のほうからの審議状況のご報告をさせていただきたいと思っております。

資料3をごらんください。まず、この部会のほうですけれども、これまで3回部会を開いております。第1回目は12月19日、第1回目の企画部会の中でさまざまな方々からたくさんのご意見が出されたということは、皆さん記憶におありのことと思います。その課題を整理した上で2つの部会に分かれたということですので、まず、私どもの魅力の発掘・発信検討部会の課題の意見の整理というところから始めております。

資料3の審議の過程のこれまでに出示された意見の整理というところが第1回目に当たるところです。麻生区の現状につきまして、まず意見の整理の前に認識を深めてお

こうということで、データで見る麻生区の現況、人口ですとか、緑ですとか、公園はどこにあるのですとか、また、農業関連に関しましては、安藤委員から農業の現状、特に農業振興地域について、現状と課題について大変詳しくお話をいただきました。また、麻生区の概要ということで、地域資源、そして魅力、現状と課題、まちづくりの方向性、そして今、区役所を中心に進められております課題解決に向けた取り組みなどもレクチャーいただきまして、それらの知識を踏まえまして、これまでの取り組みの確認から、フォローの必要なもの、振り返りというものまで含めて意見の整理を行っております。

行いました結果は、大きく3つのくりに分類していただきました。麻生区の魅力のPR・情報発信ということで、PR委員会の具現化、そして麻生区の魅力を横につないだらどうか。縦割り縦割りという言葉がよくありますけれども、自分たちが目指している、これが魅力だと思うことを一方的にやるのではなくて、魅力が横につながることで、もっともっと効果のある発信の仕方ができるのではないかと、そういった側面です。

あと、若い人たちが麻生区に住んでもらうためにPRするんだよ、住みやすいことをPRしたい、そして、芸術のまち（映画のまち）であることもPRしたい、そういったPRの拠点となるようなコミュニティカフェのようなものを考えることはできないだろうかという意見が出されております。

そして、麻生区の農業についてですけれども、安藤委員からお話を伺っていただきましたものから、農業に対する関心も大変高くなりまして、麻生区の農業の魅力、もっと広く知ってもらいたいねということ。そして、農業の課題ということもお話しいただいたものですから、その課題に対応できるだろうか。その課題に対応ということは、すなわち農家が農業へ意欲を持ってモチベーションを向上することではないかという意見も出されております。

そして、もう1つの課題である空き家の利活用ということなんですけれども、コミュニティの拠点として、1番と関連するんですが、空き家の利用ができないか。そして、ボランティア団体はやはり活動場所がないよねという課題も出されておりますので、空き家が利用できないか。そして、5期の検討課題でもありました、大学が大変多い麻生区ですので、そのため、居住のための空き家利用ということも考えられないか、そういう意見が出されております。そこまでが第1回目です。

第2回目は1月17日に開催しております。この中では、そのテーマの洗い出しの中から共通認識とするために、区民目線なのか、区外の人たちから見た麻生区なのかというところも少し話し合いの観点として取り上げられております。方向性としましては、やはりその3つの課題につきまして話し合っておりますけれども、かなりこの日はさまざまな意見が出されたんですが、何しろ意見の方向があっちへ向いたり、こっ

ちへ向いたりしている状況で、なかなかみんなですうだねという方向性が見つけられなくて、手探り状態の話し合いではあったんですけども、その中からそこに挙げてあります方向性ということで大きく分けて3つ、小さい丸で4つになるんですけども、麻生区の魅力の発信について検討する、発信については麻生区の魅力を横につないだ形での発信の形にしたいよねということ。それから魅力のPR委員会の具現化。こちらのほうはもう5期を引き継いだという形もありますので、そちらのほうの方向性は持っていこう。そして、農業に関しては、先ほども言いました、麻生区の魅力の1つとして取り上げていこうという方向性で、1と2をあわせた形で進めていきましょうという方向を持ちました。

そして、空き家問題については、この空き家をテーマにすることはかなり難しいのではないかという意見が出されましたので、審議テーマの主体ではなく、PR委員会の審議の中で空き家活用ということが出てくれば検討課題にのせていくかもしれないという話し合いで、この日は終了しております。

第3回目ですけれども、こちらのほうが2月14日に行われております。第3回目の部会の中では、まず、結構皆さんが魅力とかというところで思っていることが一致していないような感じでしたので、まず、ワークショップで皆さんの麻生区に抱いている魅力とはどういうことなのかということを通識として持つために、ワークショップ形式で麻生区の魅力は何でもいいから出してみようよねということで行っております。それが資料3の右側の麻生区の魅力とはというところでまとめられているんですけども、地場野菜、麻生区の特産品、里地里山・農地などの原風景が残存していること。それから、もちろん芸術のまちであること。そして市民活動が盛んで、私どもも含めると言いたいんですが、元気なシニアが多い。それから、安心・安全なまちである。若者も多い。そして住環境が良質である。子育てがしやすい。景観もいい。本当に魅力的なお店も多いし、さらに都心へのアクセスがよいと、いいことがたくさん出されて、本当に麻生区っていいまちだよねということ、まずみんなで共通認識に持ちました。そして、その魅力を整理した観点が自然と農、芸術のまち、市民活動と3つの点に分けて発信していこうということを決めております。

そして、では、その発信の対象はどうしましょうという話になったんですけども、やはり若い世代がいいのではないかというふうになりました。その子どもに伝われば、その親ばかりではなく、おじいちゃん、おばあちゃんにも伝わり、区民全体に伝わるよね。子どもたちがこのまちいいね、そういうふうに言ってくれること、そしてその親が思うこと、そしてそのまた親が思うこと、こうやって、みんながいいまちだと思うよねということですので、子どもを含めた若い世代を対象にしようということにいたしました。

そして、審議テーマですけれども、麻生区をもっと好きになってもらって、子ども

たちがもうずっと住み続けていきたい、そういった子どもたちのふるさとにする、ふるさととしての魅力を感じてもらおうということで、住み続けてもらうことを目指すということにおきまして、ふるさと麻生づくり、そして愛着と誇りの醸成、子どもたちがここに愛着を持ち、誇りを持って住み続けていく、その願いを込めたテーマといたしました。

そして、今後の進め方なんですけれども、先ほども申しましたように、右側にシティプロモーション戦略策定プランのサイクルの考え方というのが書いてありますが、区民に麻生区をまず好きになってもらう、そして1人1人が参画してくる、もっと魅力が増していく。そうすると、区民によって私たちの住むまちはこんながいいんだよというふうに、区外への宣伝にもつながる、そして区外での認知度やイメージが上がる、そういうサイクルの仕組みをつくり上げていきたいというふうになっております。

私どもの部会ではそのような話をいたしまして、最終的には主体である第5期の提言の魅力PR委員会の具体化ということを中心に検討していくという方向性で、今後話し合いを進めていく予定でおります。皆様、ご意見がありましたら、ぜひよろしくお願ひいたします。

植木委員長 ご丁寧な説明、ありがとうございました。

それでは、今の説明につきまして、委員の皆様から何か補足、もしくは意見などございましたら頂戴したいと思いますのですが、いかがでございますか。ほかの部会の方はいろいろと聞きたいことがあると思うんですけれども、どうぞ。

海崎委員 すばらしいなと思ってお聞きしました。

植木委員長 私も大変すばらしいなと思って、ぜひこれが実現できたらいいなと思いました。

それでは、質問というより、すばらしいということで何か意見がまとまったようでございますので、それでは、今の報告を踏まえまして、麻生区の魅力の発掘・発信検討部会についてはこの方向で審議を進めていただくということで、全員の皆様、ご承認いただければなと思います。よろしいでしょうか。では、ひとつ拍手でお願いします。

[ 拍手 ]

植木委員長 それでは、そのような形で、すばらしい審議内容だと思いますので、ぜひこれをさらに進めていただければなと存じますので、よろしくお願ひいたします。

イ (仮称) 市民活動・絆づくり検討部会の検討経過及び意見交換について

植木委員長 それでは、引き続きまして市民活動・絆づくり検討部会の検討経過及び意見交換についてご報告をお願いしたいと思います。

なお、部会長はいろいろな事情で退任されましたので、若手の代表でございます、鈴木副部会長から、ひとつ報告をお願いしたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

鈴木（隆）委員（仮称）市民活動・絆づくり検討部会の副部会長をさせていただきます鈴木と申します。調査・審議状況につきまして報告させていただきます。

今回、部会長が辞任されたということですが、それまでもかなりの大きな議論がされておりました。

まず、区民会議のアンケートや第1回目の全体会議や第1回の企画部会等でさまざまな意見が出されまして、それをまとめさせていただきました。大項目としまして①、②と分けさせていただいていますが、第5期の区民会議の市民活動・地域活動の活性化部会からの提言をフォローしていくということがまず1つ目です。2つ目が、これは新しい意見ですけれども、地域の見守り・コミュニティづくり・多世代交流に関する課題というので2つ目をまとめさせていただきました。この2点におきまして提言、課題について中項目というのですか、提言・課題の内容ということでまとめさせていただいていますが、提言1から提言4がございます。

こちらは書かれているとおりですが、提言1、誰もがボランティアを身近に感じ、ボランティアの活動に参加しやすい機運を高めるために「ボランティアのまち・あさお」を掲げることを提案しますということです。

提言2が「あさおボランティア情報センター」を拠点としたボランティア参加のネットワークを構築するということです。

提言3については、ボランティア情報の効果的な発信とともに、情報の一元化の取り組みを進めるということです。

提言4が相談窓口の連携、入門講座、体験講座の開催を通じて、ボランティアに関心を持った区民に対して一押しするということです。

そして、新しい②ですけれども、地域での見守りや支え合いの場づくり、人材、地域の顔が見える関係づくり。見守りのためにも多世代交流が必要という意見、課題が出されております。

そして、今後考えられる審議事項としましては黒ぼちのものが挙げられていますが、提言1に対してはキャッチフレーズをつくり、周知する。また、提言2につきましては、第5期から話が出ておりますボランティア情報センターの具体的な部分ですね。そして、提言3については、ボランティアに関する情報をより多くの区民に届ける方法ですね。そして、提言4については、体験講座などをして効果的に発信したり、参加を促すというか、活動を促すというか、そういうことが挙げられます。

そして、②は2つありますけれども、白い丸に対して考えられる審議内容としましては、見守り、支え合い、人材、環境、仕組みがあれば、地域での見守りや支え合い

ができるのだろうか、多世代交流ができる場、環境、仕組みなどはどのようなものなのかということが出されています。そのようにいろいろ審議した結果、審議結果というところに書かれています。

一番重要なのは、今のところ話されているのは、提言1、提言4というのがかなり中心にという形になっております。そして、実は提言3のデータベースというところですが、こちらは、資料5にあります区民会議ニュースの裏に、実は既にあさお市民活動サポートセンター様とか、市民館様とか、社会福祉協議会様のほうで議論をされて、このようなデータベースが平29年4月からオープンするという事なので、こちらをデータベース化して、広く市民の方に情報を提供できるような仕組みが既にもう始まっているということですので、こちらにつきましては、とりあえずこちらの進みぐあい、進行の状況を見守らせていただいて、これを見ながらどういうふうに情報を提供していくかということは、ひとまず考えていくということになります。

今後進める中で非常に重要なのは、先ほど言いましたけれども、提言1と提言4の土壌づくりとか動機の部分と活動の参加のきっかけ、この2点が非常に話し合いの中で中心になっておりました。

またもう1つ、②ですけれども、仲間づくり、絆づくり、こちらが非常に大きなキーワードになっておりました。なので、動機、きっかけ、そして仲間づくり、絆づくり、こちらが一番重要なキーワードとして話を進めました結果、2の審議テーマのところですが、活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくりというテーマまで進むことができました。

そして、この審議テーマというか、このテーマを達するために、下のような担い手づくりのサイクルのイメージというようなイメージで進めば、さらに活動者がふえる、そして健康寿命が延びるといふ仮説を立ててみました。具体的に言いますと下記のような図ですね。担い手づくりのサイクルのイメージというところですが、地域活動を通じて仲間ができ、絆が生まれ、地域活動をすることによって地域が活性化して、そして健康寿命が延び、そして参加者がふえて、そしてまた活動に参加するという、こういうサイクルができるのではないかと仮説を立てたところでございます。

そして、この活動に関しての担い手と対象というところにつきましては、担い手については、基本的には全区民を対象にするということですが、まずはターゲットとしまして、シニア層とか子育てが一段落した女性というのをまずは対象にして進めていったらどうかという意見が出されて、このような対象に、まずは地域にいるというところをつけ加えさせていただいております。

そして、対象は貢献する相手とありますが、活動対象ということになりますけれども、こちらは人だけではなくて、緑や教育など、さまざまな対象があるのではないかと



ということで、地域にかかわる全てという対象にさせていただいています。

そして、今後、審議の方向性と今後の検討内容としまして、先ほどもお話ししましたが、地域活動へ参加するための動機、きっかけをどうつくるかということが一番重要なところではあります。まずはハードルを下げて、誰もが参加しやすい環境づくり、きっかけづくりをどういうふうにしていくかということが、多分この4回ほど行われた会議の中で一番話し合われたものだと思います。さまざまな地域活動などを例として出されまして、これだったらハードルが低く、地域の方がさまざま参加できるのではないかといろいろなアイデアが出されました。

また、近年でいろいろな社会的な情勢の関係で、働き方の改革とかプレミアムフライデーなどがありまして、若い世代もかなり地域に向いていっているということがあります。また、地域のキーパーソンというか、みんなを引っ張っていくような力を持った方たちもたくさんいるということで、その活動に対して共感する人たちも大勢いるという状況をつくっていくことが大事なのではないかという意見も出されてきました。

そして、こちらの方向性として動機、きっかけというところできたわけなんですけれども、今後、検討内容に関する主な意見として以下のような、最後のところですが、黒い四角の部分がたくさん出されております。こういうふうになれば動機、きっかけを促すことができるのではないかというご意見がたくさん出ております。

最初の黒い四角のところですけども、活動をPRする機会、知る機会をふやすということですが、例えばSNSの活用とか、交流会などをして団体とかかわる機会を設けたほうがいいのではないかと、また、先ほどお話しした担い手づくりのサイクルのイメージというのがありますけれども、こちらの活動に参加の前に、いろいろなPR活動が必要なのではないかとということも意見として出されました。また、活動を行うに当たって、やはり活動場所がなかなかないというご意見もあり、例えば区の施設を使うとか、または民間の会社とか、あとは神社とかそういうところを使っていくことも考えられるのではないかと、また、活動を行うにおいては、やはりかなり経費がかかるので、そういうような負担なども検討すべきではないかということです。

また、先ほど話しました地域のキーパーソンというか、地域を引っ張っていくような役割、また、地域をともにフォローアップするような役割として、地域コーディネーターとかリーダーの養成、発掘などが必要なのではないかと。また、参加を促すこととかハードルを下げるために、今、あさお市民活動サポートセンターでさまざまなことをやられているアクティブシニア講座とか、あと武蔵小杉のほうでやられている市民大学というのがあるんですけども、そちらのこすぎの大学のように、市民活動とか、自分のやりたいことというところ、まずはそこから入っていくというところから入れば、ハードルが低く市民活動やボランティア活動に入っていけるのではないかと

いうさまざまなアイデアが出されました。

こちらの①の提言の中でボランティアという言葉が多く出されておりますけれども、ボランティアというと、もしかしたら、それがちょっとハードルを上げる一因になっているのではないかなということ、市民活動、地域活動というほうがなじみやすいのではないかというご意見も出され、特に皆様の共感というか、話し合いの中の共感が得られたのは、仲間づくり・絆づくり・地域づくりという視点から市民の方、区民の方が入っていくことによって、活動に入りやすい、または広がりやすいのではないかというご意見が多数出たところでございます。

以上、ちょっと説明は終わりますが、何かアイデア等ございましたらいただければと思います。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、今の説明につきまして、同じ部会の皆様で何かフォローする内容とか、もしくはほかの部会の方でご質問する内容とか、激励の言葉でも結構でございますけれども、何かひとつお願いを申し上げます。

海崎委員 激励の言葉を。私、こちらのほうに出ていたんですけれども、多分一番大きなくくりというのは、担い手をどうつくるかということをよく考えましようよと。ボランティアしませんか、こんなボランティアがありますよとか、そういういろいろ募集はしていますよね。ボランティアという言葉が、ある先生も言われていましたけれども、プロ化しているとか、いわゆる災害の瓦れきのイメージがすぐ出ちゃうので、ボランティアという言葉を使うならば、ちょっと説明しないとだめだよということもあって、我々の部会ではボランティアとすぐ使っちゃいましたけれども、社会貢献とか、仲間づくりとか、こういう言葉を使ったんです。

担い手をどうやるかというのはどういろいろなPRをしても、やはり敷居が高いんですよね。なので、まずその担い手になる人をどうつくろうかと。だから、底辺を広げたいねという話で、そのためにはやはり仲間をつくって、絆をつくって、その中からボランティアのほうに誘導するような、それがすごく大事だねということで、このサイクルをみんなでちょっと考えましたので、ここは今までとちょっと違う考え方というか、新しいやり方かなと思って自己満足をしているということでございます。

植木委員長 ありがとうございます。的確なフォローをしていただきましてありがとうございます。

ご質問等、どうぞ。

高倉委員 高倉でございます。今の海崎委員のご発言にも関連するんですけれども、第5期で私も実は市民活動・地域活動の活性化部会におりまして、ボランティア活動をどうしたら活性化できるかみたいな話でやっていたものですから、ボランティア活動、確かにハードルが高いから、今回、地域活動という言葉に変えられていると納得した

んですけれども、本心を言えば、もうちょっとボランティア活動で突き詰めてほしかったなという気持ちがあります。

それはさておきまして、1つご質問したいのは、第3項目の地域活動の担い手と対象ということで、今の海崎委員のお話とか鈴木委員の説明にもございましたけれども、担い手というか、地域活動に多くの世代、多くの区民の方々に参加していただくためにみたいな裾野を広げたいと言っているのであるのならば、むしろここに書いてある担い手層をシニアとか子育てが終わった女性、ですから、女性については若干若くなると思いますけれども、それに絞り込んだという、その経緯がちょっとよくわからないので、その整合性といいますか、そこを説明していただきたいと思います。

海崎委員 絞ったわけではないのだけれども。

鈴木(隆)委員 そうですね。絞ったわけではなくて、まず何かを始めるときに、ターゲットとして日中活動できる、幅広く活動できる方を、まずはこのようなサイクルに入っていたかというところからスタートして、だんだん広げていくという意見が出まして、そういうふうにさせていただきました。

海崎委員 まずはという、まずに気持ちが出ていますね。

高橋副委員長 それともう1つは、第5期ではシニアの世代、定年退職をした65歳から74歳までの年齢制限というわけではございませんが対象にしていたこと。これからの時代の育成の中で、やはり多世代というか、そういう状況を踏まえて、こちらにもありますけれども、子育てが一段落したというところになると60代にはなりますが、やはりボランティアという枠を最近少し外しているのは、1つの区民活動に参加していきますけれども、二、三年たつといろいろと支援の協力がなくなったり、それは経済的な面なんですけれども、その中で区民団体に参加していく中でボランティアの精神を学んでいながら、最終的にはそういうボランティアの活動にしっかりと加わっていく、最初はハードルを低くして区民活動からというところも、ボランティアよりも少し大きな視点に立ってという話し合いも行われておりました。

石井委員 では、私は応援する意味でいいですか。第5期はかなりシニアに特化していましたが、鈴木さんが4番の審議の方向性と今後の検討内容についてのところで、誰もが地域活動に参加できる機会をつくる必要があるということをおっしゃったことは、とても素晴らしいことだと思います。今、若い人でもだんだん地域に目を向け始めておりますし、親子向けの講座をするとかなり参加者が多いので、ぜひよろしく願いいたします。応援しています。

植木委員長 温かいお言葉をありがとうございました。

菅野委員 まずはというふうになっていますから、シニア層、それから子育てが一段落したというところで、いいのだと思うんですね。ただ、地域の見守りや支え合いの場、

そういうところの人材を求めるとか、あるいは多世代交流ができる場、そっちのほうに話が行ったときには、どうしても若い人の力が必要になってくる。今、子どもを育てている親御さんたちにできたら力をかしてもらおうという方向をもっと強めていく必要があると思うんです。どういうことかという、子どもを育てているお父さん、ちよūd小学生や中学生のお父さんというのは一番忙しいときですよ。一番忙しいから、一番子どもが見えないときだと思うんですよ。だからこそ、子どもの活動を地域が行って、そこへお父さん、お母さんに来てもらって、そして自分の姿を子どもに見てもらおうという場がやはり強調される必要があると思うんです。

実は私も子どもを預けっ放しでいいかなと思って預けたら、だめだと言うんですね。あなたももっと手伝ってくださいと言われて、ある仕事についてたことがあるんですが、忙しくて、とてもそんなところに出られません、そういうふうにお断りしたんですけれども、忙しい人だから頼みますと言うんですね。忙しくない人には頼みませんと言うんですよ。つまり、そこで一生懸命ボランティアをやった人は、子どもとともに、あるいは地域の人と一緒に働いた人は、年をとってもそういう活動をずうっと続けていくんですね。ぜひそういう方をそこで見出していく、何かそういう場を求めていくことが必要かなと、私もそのとき、いろいろ教えられたものですから、今もできるだけ何か手伝いをしようと思っています。

植木委員長 貴重な意見をありがとうございます。

高橋副委員長 ありがとうございます。今の菅野委員、私もこの市民活動・絆づくり検討部会の6期に参加したときに、私自身がやはり市民活動、区民活動の実態を知らないというところで、2月あたりは、先ほど、武蔵小杉のごえん楽市にも参加してまいりました。これからまたそこから市民館の社会教育委員会にも参加をしていたときに、自主企画事業の応募の団体の方も見えて、そこでは、今菅野委員がおっしゃったように、あれはものづくりとあえて言うんでしょうか、今それがすごく盛んで、シニアの方が本当に小さなお子様たちとか、小学児童とか、親も参加の上で、そういう木を使ったいろいろなおもちゃのものづくりとか、もう1つは、もっとグループ的に、やはりシニアの方を募集して、子どもたちと一緒に市民館でおもちゃづくりをしていたり、また、農ある風景の中で、幼児とか子どもさんとかを連れた若いママたちが農家の方から土地を借りて、その指導者がシニアの方というところで、私もすごく再発見をして、そういう区民活動の小さなグループが麻生区でもいろいろつくられてきているという新しい発見をして、先ほどの石井委員のお話も大変きちんと風景が浮かんでくるような気がいたしました。頑張らせていただきます。

松田(基)委員 松田と申します。鈴木委員がお話しされたボランティアの言葉のハードルが高いというのは本当に納得します。ボランティアというと一歩構えてしまう方が多いんですけれども、市民活動という言葉で広げていくと取りかかりがよくて、皆さ

ん、生活しているわけなので、自分たちの生活と直結するような形の取りかかりがとでもよいと思います。

菅野委員がお話しされた子どもを育てる世代をとということで、私も小中学生の子どもがおりますけれども、やはり親子で参加するというのは物すごく強いものがありまして、きのうは黒川の青少年野外活動センターのほうで自然体験フェスティバルがありまして、そちらのお手伝いに行ってきたんですけれども、親子で参加する方が物すごく多いです。その中には、年配層の方もいろいろな指導をしたりとか、昔遊びをやったりとか、ピザをつくったりとか、ツリーに乗ったり、ボーイスカウト、ガールスカウトもそこに参加し、本当に自然を体験するというので、子どもがすごく生き生きとしておりましたけれども、必ず親もついてきていますし、年配者のおじいさん、おばあさんも一緒に参加しています。こういうボランティアという人たちがそれをつくり上げていますけれども、その中に参加するのはやはり市民活動ということなので、みんなが市民活動の盛んなまちだとわかるように、親子世代を引き上げる方向でこの内容もいいと思いますので、応援します。(拍手)

植木委員長 すばらしい意見をありがとうございました。

菅野委員 審議の方向性と今後の検討内容と書いてありますね。そこに書いてあることに賛同する意味で、先ほどのお話をしたつもりだったんです。よろしくお願いします。

佐野委員 佐野です。私もこちらの検討部会の部会員なんですが、いろいろな意見が出まして、先ほどから皆さんおっしゃっていらっしゃるように、ボランティアという言葉自体の捉え方が皆さんそれぞれ違いますので、一くくりでボランティアという言葉はちょっと使わないほうがいいのではないかということになりました。

それで、市民活動というか、地域に参加しましょう、顔の見える関係づくりをしましょう、まずはそこからですね。最終的な方向としては、麻生区民全員がその辺の意識の底上げをしたいということが底辺にはございますが、やはり若いときから、先日例に出しましたけれども、少年野球に子どもと一緒にいくお父さんとかPTA活動をされているお母さん、これは全て地域活動と捉えましょうということで、この部会ではなっています。ですから、子どもさんがいて、私は時間がないからボランティアはしませんとよくおっしゃいますけれども、ボランティアというのは時間がある人がして、時間がない人はできないものでは決してないわけであって、日ごろからそういう関係をつくっていて、顔が見える関係づくりになっていけば、子どもたちも、お父さん、お母さんがこうやって地域でやっているのだという、自分たちが大きくなって父親、母親になったときに、また同じように子どもを連れて地域での活動に参加する、そういう循環型社会というのをつくるためには、やはり小さいお子さんを持っている方々から参加していかないとできないと思うんですね。定年になって、時間があつたからボランティアしましょうというのは、やはり若いときの経験がなければ

なかなか取っつきにくいということで、若い世代のときからそういうものになれていてというか、当たり前になっていけば、それこそ社会として世代が変わっていても、それがサイクルとしてつながっていくのではないか、そういうかなり大きな構想なんです、そのきっかけとして、まずは地域活動、顔の見える関係づくり、市民活動、どんな活動でもお互い地域で参加するきっかけをつくっていこうというところからスタートしましょうということになっております。

以上です。

植木委員長 ありがとうございます。

橋本委員 私も何か言いましょうか。鈴木さん、いい発表をどうもありがとうございます。活動の経過がよく見えました。

それで、私はこの3の地域活動の担い手と対象というところをよく読んでみますと、まず、菅野さん初め皆さんがご意見を出されているように、やはりターゲットを絞って、そこでボランティアを育てるという中では、先ほどから意見が出ているように、それでは、小さい子どもから皆さんが何かの行事とか活動に参加する、そのための仕掛け人が必要なんです。その部分を絞ってこういったことに向けていこう、こういう解釈論に私は立ちましたので、この説明で十分立派だと思っています。鈴木さん、頑張ってください。鈴木さんだけではないから怒らないで、そういうことです、解釈論。

植木委員長 よろしいですか。非常に前向きな意見、それから激励のお言葉等々、皆さんからいただいて、鈴木さんも感激しているのではないかなと思いますけれども、ひとつ頑張ってくださいねと思います。

私もこの部会に入っておりますけれども、働き方改革やプレミアムフライデーという新しい動きが起きているということで、そこら辺を大変勉強させていただきました。そういった意味では、シニアだけではなくて、若いお父さんや何かもこれから地域活動に参加できるような、そんな機運をぜひ生み出せばなと感じておりますので、皆様のご意見を拝聴いたしまして、そういった方向で進めさせていただければなと思っております。

大変有意義な意見、激励をいただきましてありがとうございました。それでは、この部会の進め方につきましては、今報告をいただきました内容で進めさせていただくということでご了承をいただきたいと思っております。ひとつ拍手でご了承いただければと思います。

[ 拍手 ]

植木委員長 ありがとうございます。

ウ 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

植木委員長 それでは、企画部会でいろいろとご苦勞をいただいておりますので、その内容をひとつお話しただきたいと思ひます。

高倉部会長、お願いいたします。

高倉委員 高倉でございます。前回まではまだ企画部会の部会長、副部会長は決まっておりましたが、今回ご報告といたしまして、私、高倉が部会長、あと菅野委員が副部会長という、図らずも第5期の企画部会のコンビと一緒にという形になりますけれども、2人で企画部会の進行をさせていただきますので、皆様方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

企画部会というのは、両部会のハンドリングと申しますか、ステアリングと申しますか、区民会議全体が迷わないようにハンドルをとっていくということが私たちの企画部会の仕事だと思ひますので、これも重ねまして、皆様方のご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、私からは、企画部会の検討経過と申しますよりは、むしろ今月発行いたします第6期としては初めての区民会議ニュースについてご説明させていただきたいと思ひます。

企画部会では、広報活動の一環といたしまして、任期2年間の間に大体6回程度の区民会議ニュースの発行を予定しております。企画部会で議論いたしました結果、今期の広報活動の基本方向としましては、審議の進捗状況を区民の皆様方に伝えることはもとより、区民の皆様方に区民会議にもっと関心を持ってもらうとともに、積極的に全体会議や各部会を傍聴していただくのではないかとということになりました。このたび発行いたします区民会議ニュースにつきましてもこの方向性で編集しております。

では、具体的な内容についてご説明いたします。お手元の資料5をごらんください。

まず、今期第1号ということで、区民会議の目的や審議の様子を掲載いたしております。大きな見出しといたしまして「第6期区民会議がスタートしました!」、サブタイトルは「～テーマを決定し、審議が本格化しています～」となっております。

今期の区民会議のスタートは昨年夏ですから、今さらスタートだろうかという意見もありましたけれども、各委員の紹介記事を掲載している等々のことでもありますので、この表現、スタートしましたでいいのではないかとということになりました。そこを補うためにサブタイトルをつけております。こういった形で、まず第1面には審議の様子を掲載しております。

次に、先ほど申し上げましたように、区民の皆様方に区民会議に興味を持っていただくために、こんな人たちが委員になっているのだということで、各委員の皆様を各自の原稿によりご紹介しております。これにより、地域の方々が区民会議ニュースを

ごらんいただければと考えております。また、この各委員の記事におきましては、皆様方から各委員の意気込み等もいただいております。これを掲載しております。皆さん頑張ろうという気持ちをあらわしているのではないかと考えております。

中を開いていただきまして、委員の紹介が載っておりますし、右上のほうには2つの部会の審議テーマ、今日、いろいろお話がありましたけれども、まだこれから深掘りしていきますが、簡単にテーマを書いております。

それから、左下のほうにはリストといいますか、区民会議の名簿という形で掲載させていただきます。中身については後ほど詳しくごらんください。

最後のページになりますけれども、先ほどもございました第5期の区民会議の提言を受けてという部分で、記事を一番上段に掲載しております。中身につきましては、先ほど、鈴木委員からもお話がありましたように、ボランティア情報の効果的な発信とともに、情報の一元化を進めることという第5期の提言に関連いたしまして、このたび、この4月から市民活動団体検索サイトが麻生区で立ち上がりますので、この紹介をさせていただきます。

次に、このページの中段につきましては、先ほど申し上げましたように、傍聴者をふやしたいということでございますので、今期におきます当面の全体会議、各部会の開催予定を掲載させていただきました。

そして最後に、下段のほうで、これは第5期までの区民会議ニュースと同様でございますけれども、意見・要望等をいただきたいという区民の皆様への呼びかけを掲載しております。

内容的には以上でございますが、発行スケジュールの都合で、既に今期のこのニュースにつきましてはもう印刷が終了しております。事後の説明となりまして非常に申しわけございませんけれども、その点、委員の皆様方にはご了解いただきたいと思っております。

なお、今後、区民会議ニュースの概要につきまして、こんな記事はどうだろうとかいろいろなご意見があるかと思えます。もしそういうのがございましたら、企画部会の広報担当の林委員にでもお伝えいただければと思っております。

私からの説明は以上です。

植木委員長 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして何か補足とか意見はございますでしょうか。

橋本委員 配布対象はどこに、回覧板なのか、その説明がないので。

植木委員長 では、その説明をお願いします。

高倉委員 済みません、配布対象は、各町会を通じて回覧で配布しておりますし、主要な区の施設についてはそこに置いております。トータルで5000枚ほど印刷しております。全戸配布にはなっておりません。よろしくをお願いします。



植木委員長 回覧ということでございます。

それでは、意見もございませんようですけれども、企画部会の方には印刷等々のことも含めまして大変お世話になるわけでございますが、今後とも、ひとつよろしくお願い申し上げたいなと思っております。

### (2) 第4回以降の全体会議の開催日程について

植木委員長 それでは、議事(2)第4回以降の全体会議の開催日程につきまして、事務局から説明をお願い申し上げます。

事務局 それでは、私から説明させていただきます。企画課担当係長の福島と申します。よろしく願いいたします。

それでは、(2)第4回以降の全体会議の開催日程についてでございますが、お手元、A3でお配りしております参考資料1をご用意いただければと思います。

こちら、第6期麻生区区民会議の全体スケジュールをお示しさせていただいております。前回、ご承認をいただきましたとおり、全体会議につきましては第3火曜日の15時からということになってございますので、次回は7月18日火曜日の15時からということでございます。その後、第5回、第6回、第7回も日付がもう決まって、日程を入れておりますので、ご予約のご確認を再度お願いできればと思っております。

また、それぞれの部会につきましても、(仮称)市民活動・絆づくり検討部会のほうは毎月第4木曜日の午後3時から、麻生区の魅力の発掘・発信検討部会のほうは毎月第2火曜日の午後3時からということになっておりますので、そのあたりもあわせてご確認いただければと思います。いずれの会議も次回は4月の開催ということになっておりますので、お間違えのないよう、改めてお願いできればと思っております。

議事(2)の説明については以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、ただいまご説明がありましたように、第4回以降の全体会議の日程につきましてはこのスケジュールどおりになりますので、ひとつ手帳にでもしっかり書いておいていただいて、お忘れのないようお願い申し上げます。

### (3) その他

植木委員長 それでは、引き続きまして議事(3)に移りたいと思います。その他ということで、事務局から説明をお願い申し上げます。

事務局 それでは、続きまして、私のほうで進めさせていただきます。

区民会議からの充て職についてでございますが、資料6をお手元にご用意いただければと思います。区民会議からの充て職が、こちらにございますとおり、あさお福祉計画推進会議と川崎市麻生区市民提案型協働事業審査委員会ということで2件ござい

ます。こちら、両部会の進捗を把握してございます企画部会の委員から充て職とさせていただきます。あさお福祉計画推進会議には、高倉部会長に、川崎市麻生区市民提案型協働事業審査委員会については、菅野副部会長にお願いできればと考えてございます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

植木委員長 いかがでございますか。今ご提案がございましたけれども、この内容で決定させていただいてご異議はございませんでしょうか。

ご異議がないということ、皆さん、拍手でひとつお願いいたします。

[ 拍手 ]

植木委員長 それでは、大変お忙しい中、充て職をお願いいたしますので、よろしくお2人には頑張ってくださいと思っております。

それでは、本日の議事は以上になりますが、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 先ほども話がありましたけれども、第4回、次回の全体会議ですけれども、7月18日火曜日15時から開催させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。そのように計画をつくっていただければなと思います。

それでは、一応議事はこれで終わりでございますけれども、今日は大変足元のお悪い中、またお忙しい中、ご出席いただきました参与の皆様、いろいろなご助言や本日のご感想などをお願いしたいと思っております。

それでは、雨笠議員のほうから。

○雨笠参与 皆様、本当に大変真剣なご議論、ご苦労さまでございました。いつも50音順で私が一番なものですから、たまには逆からと思ったんですけれども、委員長のご指名ですので。

特に麻生区の魅力づくりについてもさまざまなご意見をいただきました。麻生区ができてから、開発の過程からいきますともう既に50年近くたっていますよね。そういう中で、当初、草創期として人が集まる開発が始まり、30年ぐらい経過して、非常にいい人たちが集まっていた。それに伴って魅力のあるまちも整ったんですが、50年経過しますと、間もなく第三世代が集まる、その魅力にあふれたようなまちに変わっていかねばいけない。そういうことを考えますと、新百合ヶ丘を中心とした都市機能も大変厳しい状況になっている。今、南口の島を1つ壊していますけれども、ああいう小手先ではちょっと難しいようなところまで来ていると思っています。

また、この新百合ヶ丘を取り巻く環境として見れば、首都圏の商圏に比べて、例えば、ここは二子玉川やたまプラーザ、そして新百合ヶ丘、多摩センター、こういった

ところで、私は湘南との間に1つの大きな多摩リバーサイド商圈構想というのがあってもいいのだと思うんですね。その中には、やはり新百合ヶ丘は欠かせない。ですから、新百合ヶ丘をそういうふうな魅力のあるまちにもう1回立て直していきたいと思っています。

それから、ボランティアについては非常に勉強になりました。私は常々ボランティアについては、欧米で言うとチャリティーという言葉があるんですけども、それに似ているような部分があるのだろうなと思っておりました。そのために、ただ、日本でちょっと欧米と違うのは、やはりやりがいに対してのオナーと感謝なんですね。ボランティアと一概に言っても、例えば公共性の高いものですか芸術性の高いもの、それから生きがいの向上。それから、興味を持たせていただくものについて言っても、例えばおもしろみとかスポーツや遊び、そのぐらいの多種多様性があると思うんですね。ただ1つ、その中でやはりいい方を中心にそういう活動をもしつくれたとしても、それがどうも続かないのは、私はやはり貢献に対する評価というのが1つあるのだと思っています。

ですから、私は実は有償ボランティアという制度を提案した1人であります。ただ、これは雇用関係はできないのだけれども、やはりパブリックが年末には、この団体は本当に公共に対して、そして社会に対してよくやってくれたから謝金ぐらい出しますから忘年会ぐらいやってください。だって、そういうやりがいにつながるというんでしょうか、ただお金を出せばやりがいにつながるのではないけれども、やはり感謝をしていますという部分があってもいいのだと僕は思っています。

ですから、そういう意味でこの区民会議というのは、前の阿部市長がつくった自己完結をして活動してくださいということが一番力点になっている団体ですので、今日は、そういう意味での皆さん方のこれからの意気込みを感じましたので、ぜひ頑張ってください。私たちもできることは頑張っていきます。

植木委員長 ありがとうございます。大変力強い応援をしていただきまして、勇気りんりん頑張りたいと思います。

それでは、老沼さん、お願いします。

老沼参与 皆さん、本当にお忙しい中、闊達なご議論、そして激励、応援と、すばらしい会が開かれたなと感じております。心より感謝を申し上げたいと思います。

各部会の中でいろいろな問題ということで課題が挙げられていましたけれども、やはり共通する中でのPRという部分について共通課題があるのかなといったところで感じております。

私も麻生の魅力というのを考えるんですけども、高校の同級生、中学の同級生と食事、お酒を交わす機会が大分ふえてきたんですが、その中で、麻生区の昔ってどうだったのとやはり聞かれることがあるんですね。例えば農業振興地域、安藤委員か

らいろいろな話があったと思いますけれども、その昔、早野のほうでは馬を飼っていたのだよとか、今の水処理センターのあたりは本当に一面水田があった場所だよ、今黒川のほうでは竹炭をつくったり、そしてそれを東京のほうに売りに行っていたのだよ。そういった麻生区の歴史を話すと、私たちの世代は本当に興味を持って、それでそれでそれでという形になってきます。

そういったことについて興味を持ち始めると、今度はSNSを活用していくという話ですけれども、今情報って嫌いなものは見ないんです。自分の見たい情報だけをタッチしたりして、嫌なメールは開かない、捨ててしまうという私たちというか、今の社会の状況になっておりますので、ぜひ麻生区に皆さんが本当に興味を持ってもらえるようなことを始められればいいのかと、今話を伺わせていただきながら深く深く思っていたところでございます。

そしてまた、お話の中で小さいことから始めようという話がありました。本当に随より始めよという言葉が一番大切なことではないかなと思います。大きいことをなし遂げるためには、本当に小さいことから1つ1つ、まずはという先ほど言葉がありましたけれども、まずは行動に移してみる、やってみる、そういったところが大事なのではないかなと思っております。

最後になります、ボランティアということで、雨笠参加からもありましたけれども、私も地域の中で幾つかボランティアさせていただいております。でも、ボランティアという言葉を使っていないんですよね。例えば1つ落書き消し隊というものに参加させていただいているんですけれども、ボランティアしようという言葉は一切使っていないです。ただ、消すことで何が起きるの、犯罪数が減るんだよ、子どもたちの安全が守られるんだよ、だからやってみないかという最終目標をきちんと見せた上でやってみよう。まずはちっちゃいことからやってみよう。見つけることからお願いしますね、そういった動きを今、麻生区の落書き消し隊の中では動いております。

それで、本当の最後になります、ボランティアをすると、ごみがない、雑草がない、落書きがない、ないことって気づかないんですよね、当たり前になってしまう。だから、そこに対して、いつもごみがないね、ありがとうございます。雑草がないね、ありがとうございますという言葉がかけられるかどうか、そういった地域の麻生の風土づくりというのが、私は今一番大切なことではないかなと思っております。私もしっかりと応援させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。ありがとうございます。

植木委員長 有意義なお話を頂戴いたしましてありがとうございます。

なお、勝又参与と木庭参与は所用のために途中退席をされましたので、ご報告させていただきます。

それでは、月本参与、お願いいたします。

月本参与 皆さん、お疲れさまです。月本でございます。お疲れさまでございます。

今回、部会が2つありますけれども、これまでの中で、この2つの部会の検討テーマがある意味、お互いに融通し合うというんですか、共通する点とか、あと相乗効果を働かせやすいようなテーマなのかなと。特に魅力の発掘という意味での部会と、それと市民活動・絆づくり検討部会というのは、これはある意味、シニア層とか子育てが一段落した女性たちを中心に、そういった核になるオピニオンリーダーを発掘していくという意味で両方、地域の地域資源という意味での発掘というのが共通しているのかなと思いますので、そういった意味では、非常に相乗効果が楽しみな期になってきたなという感想を持たせていただいております。

働き方改革や地域活動への参加の機会ということでございますけれども、やはり地域活動への参加で、みんながそれぞれの立場でそれぞれができる範囲のことをそれぞれが活動に参加していくということが一番大切なのかなと思います。

子育て世代の方が地域の活動に積極的に参加していく機会をつくっていくということで、先ほど松田委員からも親子で参加をするイベントというお話もありましたが、親子で、お母さんとお子さんもちろんなんですが、お父さんとお子さんですよ。なかなか父親が子育てに参加をすることが少なく、なかなかそこは家庭がうまくいかなかったりというケースというのは、大きく待機児童何人みたいに数字であらわれているものがないので、そういったものはいろいろな地域で声なき声として実際ある中でございます。

こういった人を引っ張り出していく、あるいは地域活動を構成していくいろいろな核になる人たちが出てくると、こういった機会もふえてくるのかなという意味では、麻生区の魅力というのは、子育てする意味でも、いろいろなサポートがあって、また、働き方もいろいろな芸術、文化、緑とか資源があるからこそ、余暇を大切にしたりとか、働き方の意識を変えていく、それが地域活動に参加していく機会にもなるのかなということで、両方の部会が相乗効果を生むことが非常に期待ができるなということで、今日は皆さんも、特にお互いの意見がすごく建設的に進んでいるのを本当にうれしく感じております。

ぜひ相乗効果を持って、これから大きく発展していく区民会議になることをご期待申し上げます。我々市議会としても、しっかりと皆さんとともに一緒になって課題解決に取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

本日は、ありがとうございました。

植木委員長 ありがとうございました。

参与の皆さん、私どもの地域のこととか活動に大変ご理解をいただいているように感じました。そういった意味で、今後ともこの区民会議への積極的なご助言をお願いできればなと思っておりますので、これからもよろしくご期待申し上げます。

す。

それでは、最後になりますけれども、本日の審議を踏まえまして、北沢区長より一言ご挨拶をお願い申し上げます。

区長 本日は、大変にお忙しい中、このような形で活発なご議論をいただきまして大変にありがとうございました。また、参与の皆様には、お忙しいところ、最後までおいでいただき、とてもすてきなご助言、アドバイスをいただきましたこと、感謝申し上げます。

今回、これまで専門部会、3回、4回と重ねていただきました結果、今日全体会議でその部会の報告をしていただきました。大変充実したご報告をいただきましたし、その後のご議論でも本当に参考になるご意見がたくさん出たことに大変喜んでおりますし、感謝しております。

(仮称)麻生区の魅力の発掘・発信検討部会でも、まず、麻生区の魅力ってというところから、皆さんが共通して認識を持ち合おうというところから始まっているところがとても感動いたしました。そして、それを発信していくというところにつながっていくんですけれども、そういったところで1つ参考になればというお話として、この4月以降に、かわさきイベントアプリってあるんですけれども、その中に情報発信ということで市民活動やイベントの発信をしていくことになっております。市のイベントだけではなく、民間でのイベントも発信していくので、ぜひいろいろな情報をお寄せくださいということをお願いしているところですので、そういったところをぜひ活用していただけるようお願いしたいと思っております。

また、もう1つの(仮称)市民活動・絆づくり検討部会のほうでも、大変すばらしい示唆に富んだ内容だったと思っております。まさに市民活動から始まるということで、参加から始まっていくボランティア活動なのかなと思います。聞いていて感じたのは、今、地域包括ケアシステムですとか災害対策の防災といった面でも、本当に地域の絆というところから顔の見える関係がどれだけそういったところに効果を発揮していくのかということが社会的にも言われております。それを具体化する、具現化するというところが一番苦勞なのかなと思う中では、本当に皆さんからいただいたご意見を参考にして、区政としても一緒に取り組んでいけるかなと思っておりますので、今後とも、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、今回発行された区民会議ニュースでは、皆さん写真入りで、顔と、本当に皆さんの意気込み等があつて、これをごらんになった区民の皆さんは、知っている人が載っているということで本当に興味を持っていただけるすばらしい取り組みだと思っております。ますます活発にご議論いただければと思います。

また、これまでの5期までの10年間を総括する形でのこの第6期のスタートに大変期待を込めて、また、ますます頑張っていかなければと思っております。どうぞよろ

しくお願いします。本日はありがとうございました。

植木委員長 ありがとうございました。何か責任の重大さを感じるような区長のご挨拶でございましたので、これから気を引き締めて頑張っていきたいなと思っております。

### 3 閉 会

植木委員長 それでは、長時間にわたりましてありがとうございました。以上をもちまして、第3回の全体会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

午後4時15分閉会